



# 小田原男声合唱团

25周年記念(第25回)定期演奏会



日時 1996年11月2日(土) 18時30分開演  
場所 小田原市民会館大ホール

主催 小田原男声合唱团

後援 小田原市・小田原市教育委員会

## お祝いの言葉

小田原市長 小澤良明

小田原男声合唱団の創立25周年を心からお喜び申し上げます。

昭和46年に産声をあげて以来、小田原の音楽芸術の振興に大いに貢献されましたことに、心から敬意を表する次第でございます。

私は、本市を「小さい世界都市」として、小田原から文化・芸術の発信を世界に向けて行っていききたいと考えておりますが、全日本合唱コンクールで銅賞を獲得した笑力のある貴合唱団が、その役割を担っていただけたことを大いに期待しております。今宵は、小田原城下町大使の石井敬先生が客演指揮者として出演されること、観客の方も心ときめかしておられることと思えます。

最後になりましたが、25周年を契機として、貴合唱団がますます発展されますことを祈念いたしましてお祝いのごとばといたします。

## “小田男といっしょ”

福永 暁子

“全快されるまで待ちます。それから新しい男声合唱団をつくるつもりです。”井上さんのこの言葉は、病床にあって陽一郎にとってどれほど大きな励みとなり、喜びであったか、計りしれないものがありました。自分を迎えて新しい合唱団が生まれる準備が進んでいる……。こうしてわが愛する小田男が生まれたのです。たのしい交流の中で重ねてきた、輝かしい25年の小田男の歴史に拍手と声援を贈ります。そして、これから更に大きくはばたく小田男の新しいスタートに期待をこめて精いっぱい叫びます。フレー！フレー！オダダン！

## 小田原男声合唱団に栄光あれ！

日本男声合唱協会（JAMCA）事務局長

菅野 哲男

創立25周年、おめでとございます。

1972年の全日本合唱コンクール全国大会出場という小田男のデビューは衝撃的だった。なにせ、創立がその前年、場所は東京の目と鼻の先、男声合唱の神様・福永氏を常任指揮者として！日本各地の男声仲間が集まって71年に結成したばかりのJAMCAにとって、小田男の出現は驚きだった。（74年からは仲間として共に活動している）。私は隣町（藤沢）のよしみでほぼ毎年定演を聴いている。福永氏の演奏の素晴らしかったのは勿論だが、氏が欧州演奏旅行で不在の時の団内指揮者3人の競演に、人材の厚さをうらやましく感じたことも忘れられない。最近では、神奈川男声合唱協会設立をとりまとめ、95年に旗揚げ演奏会を成功させる等、地域活動に力を入れる姿勢に敬意を表する。また福永氏亡き後も演奏会に必ずご夫人の姿があるのは、団員の氏への思い入れの表れと敬服している。

創立25周年を機に、小田男が世界に雄飛するよう期待して、お祝いの言葉とします。

## ご挨拶

横浜グリーンクラブ会長 遠山 裕之

本日、貴団が25周年記念定期演奏会を開催されましたことを心からお祝い申し上げます。貴団は昭和47（1972）年に第1回定期演奏会を開催して以来、地道な努力を重ねて地域合唱文化の発展に寄与されたのみならず、日本男声合唱協会には創立以来神奈川県を代表する合唱団として参加され、また昨年は神奈川男声合唱協会設立の中心的な役割を果たされました。石井敬先生客演指揮による「枯木と太陽の歌」を中心とした、記念すべき第25回定期演奏会のご成功を祈念すると共に、日本の合唱界では未だにマイナーな存在である男声合唱が今後益々発展することを祈念してご挨拶と致します。

## ごあいさつ

小田原男声合唱団団長 柏木 秀茂

本日は定期演奏会において頂き有り難うございます。心よりお礼申し上げます。25年を振り返ってみますと、福永先生、板橋さん、吉田さんなど亡き師、亡き友が思い出されます。慣れ親しんだ練習場（旧三の丸小講堂）が変わったのも大きな出来事でした。今年から、9年間ご指導頂いた渡辺先生に代わり、外山先生、桑原先生をお迎えし、新しい指導体制ができてきました。私たちも大いに意欲を燃やしています。定期演奏会のステージ数は、今回の「枯木と太陽の歌」で100ステージとなりました。このステージには、全国各地から団友もはるばる駆けつけ、JAMCA所属の合唱団からの友情出演を合わせ、作曲家石井敬先生の指揮のもと、意義深いステージとすることができました。過去のそれぞれのステージを懐かしむだけでなく、反省すべきは反省し、次のステップに繋げたいと思います。地域の皆様温かいご支援により25年間合唱団を持続できたことを感謝申し上げます。併せて今後のご声援、ご協力をお願い致します。なお、今回の曲目のうち「幻の雪」を諸般の事情によりやむなく「柳河風俗詩」に変更致しました。深くお詫び申し上げますようお願い申し上げます。



## 石井 徹

作曲家。西ドイツミュンヘン国立音楽大学にて、カール・オルフ教授に作曲法・指揮法を師事。帰国後、創設期の桐朋学園音楽大学に10年間在職、その後、愛知県立芸術大学音楽学部教授及び学部長として、建設時より教育並びに大学運営に当たった。また(社)全日本合唱連盟理事長として、長きにわたり音楽文化向上のため音楽社会活動を続けた。

主な作品にはNHK音楽コンクール管弦楽の部第1位受賞の管弦楽曲「前奏曲」、TBS芸術祭賞の「シンフォニア・アイヌ」をはじめ、オペラ「裂縫と盛遠」、バレエ「神とバヤデーレ」、合唱曲「風紋」「三つの山の詩」、映画音楽「妖星ゴラス」ほか多数。84年紫綬褒章、93年ポーランド共和国一等勲章“国家功労・黄金十字賞”受賞。

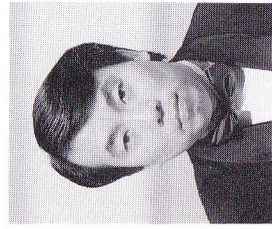
現在、愛知県立芸術大学名誉教授、全日本合唱連盟名誉会長、東京文化会館・東京芸術劇場の運営審議会委員などの要職にあり、“きらめく城下町大使”として、良き小田原を内外に紹介する労を厭わない。



## 外山 浩爾

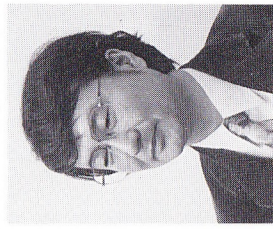
日本楽壇の功労者外山国彦氏を父に、指揮者外山雄三氏を兄に持つ音楽一門の出身。幼少の頃から父国彦氏や有馬大五郎、岡田九郎両氏により本格的な音楽教育を受けた。東京芸術大学声楽科に入学、柴田睦隆、ウーファァーベニヒ、リア・フォン・ヘッサート諸氏に師事し、卒業後直ちに同大学及び同附属高校で教鞭をとる。その傍ら藤原歌劇団の活動に参画し、「カルメン」をはじめ多くのオペラに出演した。

現在、鳴門教育大学において後進の指導に当たると共に、全日本合唱連盟の活動推進に力を注ぎ、92年には文部大臣より教育功労表彰を受けた。本年より、小田原男声合唱団の音楽監督・常任指揮者に就任、当団の音楽性向上に情熱を傾けている。



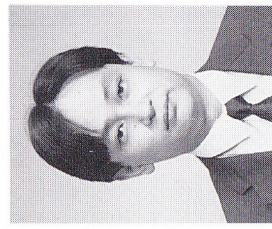
## 久邇 之宣

国立音楽大学ピアノ科卒業。近藤孝子氏に師事、卒業後、畑中良輔氏の勧めにより、声楽伴奏者としてデビュー。伴奏法を小林道夫氏に師事。79~81年ウィーンに留学、ウィーン国立音楽大学でロベ르트・ショルツ氏に学んだ。その間オーストリア国立放送に出演、帰国後声楽伴奏者としての活動を再開し、高い評価を得ている。東芝EMIから多数のCDをリリース、小田原男声演奏会においても客演ピアノリストとして、華麗な演奏は絶賛を浴びている。



## 遠藤 雅夫

作曲家。東京に生まれ、東京芸術大学大学院修了、管弦楽、室内楽、合唱曲等の他に、校歌の作曲も多く、その作品は海外でも広く演奏されている。小田原男声は第21回定期演奏会で、「光の海(多田智満子作詩)」を演奏し、今年9月に行われた第13回JAMCA演奏会には編曲者として、自らピアノを担当した。現在、(社)日本作曲家協会理事・副事務局長、日本現代音楽協会委員。



## 秦原 正人

1969年千葉県に生まれる。東京芸術大学音楽学部指揮科において、指揮を遠藤雅古、フランシス・トラヴィス両氏に師事した。現在、NYK交響楽団などアマチュアオーケストラを中心に活動中している。本年度から小田原男声合唱団の指揮も担当することになり、その清新な、洗練とした指揮ぶりは、早くも幅広い共感を得ている。

I 男声合唱組曲 「柳河風俗詩」

北原白秋 作詩  
多田武彦 作曲

- 1 柳河
- 2 紺屋のおろく
- 3 かきつばた
- 4 梅雨の晴れ間

II ALL THAT JAZZ

遠藤雅夫 編曲  
Billy Strayhorn  
Joe Garland/Andy Razaf  
Johnny Burke/Errol Garner  
Mitchell Parish/Glenn Miller

- 1 Take the "A" Train
- 2 In the Mood
- 3 Misty
- 4 Moonlight Serenade

III 白秋のうた

北原白秋 作詩

- |   |         |    |    |    |       |    |
|---|---------|----|----|----|-------|----|
| 1 | ちんちんちどり | 近衛 | 秀麿 | 作曲 | 林 雄一郎 | 編曲 |
| 2 | あわて床屋   | 山田 | 耕柞 | 作曲 | 福永陽一郎 | 編曲 |
| 3 | この道     | 山田 | 耕柞 | 作曲 | 福永陽一郎 | 編曲 |
| 4 | 帰ろ帰ろ    | 山田 | 耕柞 | 作曲 | 福永陽一郎 | 編曲 |
| 5 | からたちの花  | 山田 | 耕柞 | 作曲 | 林 雄一郎 | 編曲 |
| 6 | 砂山      | 中山 | 晋平 | 作曲 | 福永陽一郎 | 編曲 |

IV 枯木と太陽の歌

中田浩一郎 作詩  
石井 敏 作曲

- 1 枯木は独りで唄う
- 2 花と太陽の会話
- 3 冬の夜の木枯しの合唱
- 4 枯木は太陽に祈る

## 組曲「柳河風俗詩」について

多田 武彦  
昭和27年、私がまだ京大の学生で、京大男声を指揮し、清水脩先生の組曲「秋のピエロ」を演奏したとき、はじめて清水脩先生にお会いした。翌28年、銀行に就職した年の合唱コンクール課題曲に、「柳河」が佳作入選したとき、清水先生から「月11回大阪で教えているから、来てみるか」と勧められ、対位法を学ぶことにした。習い始めて2度目に先生は、「理論も大切だが、作品も作ってみなければ駄目だ。来月までに何か作って来なさい」と言われたので、さきに佳作入選した「柳河」にあと3曲を加え、組曲「柳河風俗詩」とし提出した。

あれから40年近く、私も還暦を通過したが、「柳河風俗詩」は愛唱され続けた。北原白秋先生の詩の力の賜物である。私は清水先生の教えに従い、詩の中に流れている起承転結を合唱曲におきかえたにすぎない。

旧制大阪高校の頃、1年先輩の田中信昭さん（現、東京混声常任指揮者）が講堂で、山田耕筰先生作曲で白秋の「六騎」を口ずさんでいたのをそれとなく聞いたときから、この詩が含まれている詩集「思い出」に関心を持った。多くの美しい詩群の底に秘められた、当時の多くの人々の、計り知れない苦しみや悲しみを、ひしひしと感じたからだろうか。（第20回定期演奏会プログラムから転載）

小田原男声合唱団は、発足当初から日本の男声合唱曲のスタンダード・ナンバーをひととおりにレパートリーとして所有しようという、遠大にして且つ壮大な目標を掲げて来た。第1回の“多田武彦「雨」”“森脇憲三「碑」”第2回の“南弘明「蛙の歌」”“清水脩「月光とピエロ」”に続いて、第3回定演で取り上げたのが、たまたま本日と同日“多田武彦「柳河風俗詩」”“石井敏「枯木と太陽の歌」”であった。以後高田三郎、團伊玖磨、三木稔、間宮芳生、信時潔、広瀬量平など多くの男声合唱曲を歌い続けてきたが、その中で圧倒的に多数を占めているのは多田武彦の作品である。このことは男声合唱を志すものにとって、多田武彦の合唱曲がいかに魅力的なものであり、また、われわれ小田原男声の傾向にも合ったものであるかを雄弁に物語っている。

## ALL THAT JAZZ

82年、明大グループクラブによって初演された全7曲から4曲、編曲者自らのピアノともどもお送りする。

### 1 Take the "A" Train

D. エリントン楽団のオーブニング・テーマとして親しまれているばかりでなく、モダンジャズのスタンダード・ナンバーの一つである。A列車とはニューヨークの地下鉄8番線のことで、これに乗るとハーレムに行く。「ハーレムのシユガー・ヒルに行くなら、A列車だよ。さあ、来たぞ。レールのハミングが聞こえる……」という歌詞がついているが、歌うのは大変難しく、アナタ・オディ、サラ・ヴォーン等、器楽奏者なみの技巧を持った、生粋のJazz歌手にしか歌いこなせないようである。

### 2 In the Hood

グレン・ミラー楽団のヒット曲。パンチの効いた、実にイキのいいスウィング・ナンバーで、生前、グレンへのリクエストが最も多かった曲。歌ってみて発見したことがある。この歌詞は“ナンパ節”であった。ドミソ、ドファアラ、ソシレの分散和音に乗って、ナンパの進行状態が語られ、成功して、In the Hood Oh Joy!とバクハツする。

### 3 Misty

オリジナルはジャズ・ピアノ・トリオで演奏するが、後に歌詞が付けられ、ジュリー・ロンドンやシナトラも歌っており、今大変ポピュラーな曲となった。Mistyとは“霧のような”であり、恋した女性の心境を表現しているらしく、美しい曲に、美しい言葉を合わせた歌詞は、霧のようにつかみ所が無い。「……歩いて行くと、何千ものヴァイオリンが鳴ります。それはもしかしたら、あなたのハローという声か。あなたといると、霧につまれているような気持ち……」

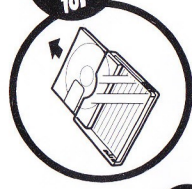
I get HISSY and too much in love. J

### 4 Moonlight Serenade

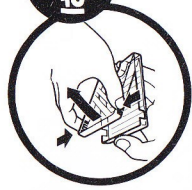
言わずと知れたグレン・ミラー楽団のテーマ曲。原曲はクラリネット・リードのロマンティックな美しさが遺憾なく発揮された天下の逸品。映画「グレン・ミラー物語」を思い出す。

Jazzは聴くのはとても楽しいが、歌うのはコッパ難しい。楽しんでいただけでしょうか。

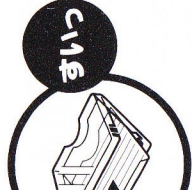
AXIA



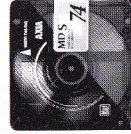
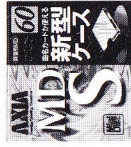
すぼっ



ぱっ



まっ



新発売!!

曲名カードが入る  
「オイスターケース」

AXIAのデジタルサウンド  
MD5新登場

## 白秋のうた

北原白秋が、東京阿佐ヶ谷の自邸で57歳の生涯を終えたのは昭和17年(1942)11月2日、小田原天神山の木兎の家を離れて16年後であった。白秋が小田原を去ったのは、大正15年(1925)のことで、小田原での生活は8年に及んだ。転居の直接の原因は、大正12年(1923)の関東大震災で赤瓦洋館三階建ての住居が半壊し、生活に支障を来たことだが、そのほかにも隣家の竹藪が繁茂し過ぎたため階上からの眺望が損なわれ、詩作の楽しみを奪われたことも原因だと言われている。

白秋はすでに「邪宗門」や「思い出」(「柳河風俗詩」を含む)によって詩人としての高い評価を得ていたが、大正7年(1918)から大正15年(1926)までの小田原時代にも、歌集「雀の卵」、詩文集「雀の生活」、詩集「水墨集」、歌謡集「日本の笛」などを刊行し、その創作意欲は少しも衰えを見せなかった。しかも、それ以上に注目すべきは児童文学雑誌「赤い鳥」の発刊に参画したことによって、「とんぼの目玉」、「鬼の電報」、「祭の笛」、「子供の村」、「まさあ・ぐうす(翻訳)」など数多くの童謡集が刊行されたことである。本日のプログラムは、大正8年(1919)に発表された「あわて床屋」から、大正15年(1926)発表の「この道」まで、すべてこの時期の作品で構成されている。

### 1 ちんちんちどり

作曲家としてよりも、指揮者として名声の高かった近衛秀磨の珠玉の名作。「赤い鳥」大正10年(1921)1月号に掲載されている。近衛秀磨の作品には他に西条八十の詩に作曲した「鳥の手紙」がある。

### 2 あわて床屋

春の川辺に展開するほほえましい物語。天神山時代の白秋は幸町(現本町1丁目)の理髪老舗「伊勢谷」に行く習わしであった。「あわて床屋」のストーリーは、伊勢谷の老主人との会話がその材料であろう。

### 3 この道

大正14年(1925)、樺太、北海道各地を旅行した折の作。あかしやの咲いている道、時計台のある丘、札幌の風景が脳裏に浮かぶ詩である。自らの註にも「北海道風景です。主人公は男の子です」とある。

### 4 帰えろ帰えろ

夕暮れの町、家路につく子供たち、「かえろが鳴くからかえろ」というわらわらぶたの言葉が懐かしさをそそる。大正14年(1925)「童話」に発表されたときの言葉には、「葱の小坊主」「三丁さきへ」など小さな異同がある。アクセントにやかましい作曲家がどのように処理したか考えてみるのもおもしろい。

### 5 からたちの花

山田耕筈のリリックなメロディと相俟って、すぐれた歌曲となったこの詩には、生まれ故郷柳河の鬼童小路(むじらじ)や、小田原水の尾道のおもかげがかよう。「みんな みんな やさしかったよ」は、故福永先生が最も好まれたフレーズであった。

### 6 砂山

大正11年(1922)6月、新潟市で開かれた彼の童謡による音楽会に招かれた白秋は、子供たちの歓迎に応え、新潟の童謡を作る約束をした。小田原に帰った後、彼は荒涼たる北国の自然を3連の童謡に歌い、9月号の「小学女生」に中山晋平の曲とともに発表した。愛弟子の藪田義雄によれば、伴奏のリズムは越後の樽きぬたのそれを模したものであるという。

小田原男声の発足が11月2日、白秋忌であったことは偶然であったのだが、白秋と小田原の関わりを考えると、白秋の詩を歌い続けることもまた、われわれの大切な仕事であると言わなければならない。

## 枯木と太陽の歌

1955年に作曲された男声合唱とピアノのための「枯木と太陽の歌」が、作曲家石井敏(敬称略)の代表作であるのみならず、日本の男声合唱曲の代表作であることは多言を要しないことである。このことは、発表後40年の間に数多くの男声合唱団や大学のグリークラブが演奏会の曲目としただけでなく、ドイツ語版・英訳版が出版され、国外の実力派の合唱団の重要なレパートリーとなっていることから証明されるだろう。

楽譜には次のような作曲家の言葉が記されている。私たちが、日々人生における美しさの発見を重ねていくように、最近の私にとつての新しい経験は、

25周年記念定期演奏会 おめでとうございます

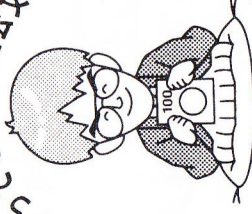
くもん  
公文式

吉浜教室

湯河原町中央1-12-8

TEL 0465-63-4557

おめでとうございます



©HABU

男声合唱のみに存在する特殊な美しさに接したことでありました。そしてその美しさ、その力強さ、表現の幅の広さといったこれらの数々の魅力に、否応なく引きつけられ、創られていったのがこの作品なのです。

この作品は、孤独なる人間の、人生におけるつきつめた哀歓といった、だれにでも通ずるであろうかのように基いて一貫したイメージを持って、あらかじめ作曲し、それを私の心の友である中田君と、曲を訂正し、あるいは詩を訂正しながら作り上げていったもので、ある意味では、音楽と詩とが同時に生まれてきた、とさえ言えると思っています。

「枯木と太陽の歌」が、広く共感を呼ぶのは、その成り立ちが前述のような友情の結晶であることと同時に、力強さとそれに支えられた青春の抒情という、男声合唱の持つ魅力がどの曲にも満ち溢れているからであらう。ピアノの部分にしばしば現れる「オステイナート（持続低音）」は、この曲が、作曲者のミニミュンヘン留学時の師であるカール・オルフの強い影響の下に、生まれたことと、帰国直後の作品であることを明瞭に物語っている。

「枯木と太陽の歌」は、創立以来、16年の長きに亘って小田原男声を指導された故福永陽一郎先生の、きわめて重要なレパートリーの一つであった。

「石井歓の作風は、日本人離れして大らかな風格と、楽天的とも言える明るさにおいて比較を許さない境地にあり、ロマンティックな色合いの濃い部分でもセンチメンタルに陥ることなく、逆に骨太の音楽を書きながらもデリカシイをそなえている。」と高く評価されたように、小田原男声は第3回の定期演奏会を始めて、JAMCA広島演奏会、東海メーグルクワイヤーズとのジョイント・リサイタル、小田原市民劇場音楽会公演、第13回、第19回定期演奏会等多くのステージを持った。創立25周年を記念する今夜のそれが、作曲家自らの指揮によって、また多くの友情出演を得て演奏されるのは、我々にとってこの上ない喜びであると言えよう。



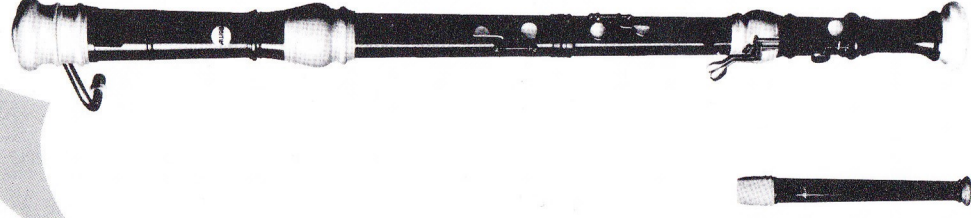
わが家に小さな農園を  
種苗・資材・農薬等  
**富国農材**  
(株)

☎259-01 住所 中井町井ノ口2413-7  
電話 0465 (81) 0558

オフセット印刷 書籍・自費出版

AUROS®

fromクライン  
toバスアウロス。



シンフォニー No. 501S シンフォニー No. 533

アウロスが誇る超精密技術の結晶。

格調高いワロツク調のデザイン。

奏響に伝える絶妙のグオイスニング。

世界一流プレーヤー絶賛の名器。

ソプラノ・アルトリコーダー全機種

新考案・指かけ付！

別売価格 ソプラノ700円・アルト200円

トヤ楽器製造株式会社

東京本社/〒174 東京都板橋区大塚町41

☎03-960-8301(代)

大阪営業所/〒541 大阪市中央区北久宝寺町2-1-7

本町39光ビル802号 ☎06-264-7119(代)

トヤメガート印刷

(1) 柳河

もうしもうし 柳河じや 柳河じや  
銅の鳥居を見やしゃんせ  
欄干橋を見やしゃんせ

(馭者は嘸吠の音をやめて

赤い夕日に手をかざす)

薊の生えた その家は

その家は

舊いむかしの遊女屋

人も住まはぬ遊女屋

裏のBANCOに居る人は……

あれは隣の継娘継娘

水に映ったそのかげは

そのかげは

母の形見の小手鞠を

小手鞠を

赤い毛糸でくくるのぢや

涙片手にくくるのぢや

もうし もうし 旅のひと

旅のひと

あれ あの三味をきかしゃんせ

場ばの浮くのを見やしゃんせ

(馭者は嘸吠の音をたてて

赤い夕日の街に入る)

夕焼小焼

明日天気になあれ

註 BANCO 緑台  
葡萄牙の郵便か

(2) 紺屋のおろく

にくくいあん畜生は紺屋のおろく  
猫を擁へて夕日の浜を  
知らぬ顔をしてしゃやなやなと

にくくいあん畜生は筑前しほり

華奢な指さき濃青に染めて

金の指輪もちらちらと

にくくいあん畜生が薄情な眼つき

黒の前掛 毛織子かセルか

博多帯しめ からころと

にくくいあん畜生と 擁えた猫と

赤い夕日にふとつまざれて

渦うずに陥おとって死ねばよい

ホンニ ホンニ……

(3) かきつばた

柳河の

古きながれのかきつばた

昼は ONGO の手にかをり

夜は萎しぼれて

三味線の

細い吐息に泣きあかす

(鳩はとのあたまに火ちん點ちいた

澆しやうんだと思おもうたらちい消えた)

註 ONGO 良家の娘  
(柳河語)

(4) 梅雨の晴れ間

廻せ 廻せ 水ぐるま  
けふの午ひるから忠信ちゆうしんが  
隈取くまいり紅べにい しゃっつせつ面に  
足どりあしどりかろく 手もかろく  
狐六法きつろく踏みゆかむ 花道の下  
水ぐるま……

廻せ 廻せ 水ぐるま

雨あめに濡ぬれたる古むしろ

円天井えんてんじやうのその屋根に

青あおい空透すき 日光にっこうの

七宝しちほうのごときらきらと

化粧部屋けしやうぶにも笑ふわらなり

廻せ 廻せ 水ぐるま

梅雨つゆの晴れ間の一日を

せめて楽しく浮うかれよと

廻り舞台まわりぶたいも滑すべるなり

水を汲ひみ出だせ その下の

葱ねぎの畑はたけのたまり水

廻せ 廻せ 水ぐるま

だんだん幕まくらの黒と赤

すこしかがけて なつかしく

旅たびの女形おんながたもさし眼めく

水を汲ひみ出だせ 平土間ひらどまの

田舎芝居いんさしやいの菲畑

廻せ 廻せ 水ぐるま

はやも昼ひるから忠信ちゆうしんが

紅隈べにとつた しゃっつせつ面に

足どりあしどりかろく 手もかろく

狐六法きつろく踏みゆかむ

花道の下 水ぐるま

居酒屋

スナック



金時 金時

志澤デパート横

5471

TEL 0465 23~0721

登山ホテル前

TEL 0465 23-4234

枯木と太陽の歌……………中 田 浩一郎 作詩

I 枯木は独りで唱う

枯木は独りで唱う  
 枯木は独りきりで唱う  
 枯木は独りなのだ  
 枯木は独りきりだだよ  
 今宵の月の出に  
 夜空に向かかって  
 心こめて唱うよ  
 生命の限り叫ぶよ  
 きれいな月の夜だ  
 悲しい祭りだ  
 大地の深い眠り覚めよ  
 枯木は思うさま唱うよ  
 地軸をふるわせ 星にもとどけと  
 枯木は すべての思いこめて  
 夜空に向って 唱うよ  
 神への願いだ  
 神への祈りだ  
 襲うは くろかけ  
 悪魔の 怒りだ  
 轟く かみなり  
 きらめく 光りだ  
 大地は狂うよ  
 この世の終りだ  
 天地は裂けるよ

Ha ha ha ha ha ha  
 枯木よ折れるな  
 枯木よ折れるな  
 悪魔に打ち克て  
 消え去れ くろかけ  
 枯木は独りで唱う  
 枯木は独りきりだ  
 独りで唱うだけだよ  
 ひとりで ひとりで……

II 花と太陽の会話

Lon lon lon lon lon  
 そらごらん あの岡  
 そらごらん 野原を  
 花蘇く 萌えるよ

そらごらん あの里  
 野は光り 鳥鳴く  
 陽は昇る 大空  
 花の言葉 優しく  
 陽に向かいささやく  
 今日の恵み 悦び

花咲くあの岡越え  
 あの里 荷馬車は行く  
 はるかに……

今日の恵み 悦び  
 花開き 唱えば  
 陽は燃え輝く  
 花咲くあの岡越え  
 あの里 荷馬車は行く  
 はるかに……

晴れわたる青空  
 陽は燃え めぐるよ  
 咲く花にほほえみ  
 散る花にさささやき  
 やさし愛ののぞみよ  
 いつまでも忘れず  
 花咲くあの岡越え  
 はるかに  
 消えゆく 消えゆく……

III 冬の夜の木枯しの合唱

黒雲ひろがる 風が来る  
 足をふまえて 枝葉をあげ  
 北風咲く 吹雪がくる  
 吹雪に耐え 克て  
 葉っぱは落ちても幹はやせても  
 肩を並べて 力を合わせろ  
 風がくる 吹雪がくる  
 北風吹き 荒れ 鳴り  
 吹き 荒れ 飛び去る……

春の日 岡は暮れ  
 友と二人の思い出は  
 いまは去り  
 鐘の音のやさしく鳴りわたる  
 夕の祈り いつの日かかえる

樹々はおれ 青ざめて  
 声もなく  
 我が身を嘆き  
 打ちふるえ泣く  
 春の日  
 岡に聞いた鐘の音よ  
 望みを捨てな  
 力をふるって  
 吹雪だ 天地に響くよ

風に向かおう  
 風に響くよ  
 葉っぱは散っても幹は折れても  
 力をふるって 闘い続けよ  
 北風吹く 吹雪がくる  
 吹雪に耐え 克て 克て

風が終わって 傷つき倒れて  
 林に残ったひとつの枯木が  
 雄叫び あげると  
 雄叫び あげると……

IV 枯木は太陽に祈る

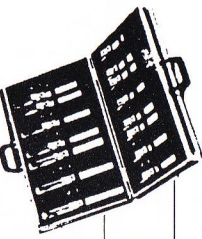
枯木は独りで唱う  
 枯木は独りなのだ  
 独りで唱うだけだよ  
 今宵の月の出に  
 夜空に真向いて  
 こここめて唱うよ  
 生命の限り叫ぶよ

きれいな月の夜だ  
 悲しい祭りだ  
 生命のかぎり  
 枯木はいつも独りだ

闘い疲れ果て  
 傷つく弱を  
 励ましふるって  
 枯木は思うさま 唱うよ  
 大地をふるわせ  
 のぞみを求めて  
 悲しいところをいたわり

くこの世の平和と  
 この世の恵みこそ  
 我が願い 我がのぞみ  
 のぞみ のぞみ……

はじめて出逢う・音楽のよろこび



トーン・チャイム

創造するよろこびが、音楽のよろこび。  
 トーン・チャイム。



株式会社 鈴木楽器製作所  
 〒430 浜松市領家2-25-II TEL. <053>463-6601

鈴木楽器販売株式会社  
 東京支店：東京都品川区西五反田7-22-17 TEL. <03>3494-3937



1972年春合宿  
仙石原中学校にて

# 小田男25年の歴史

	沿革	定期演奏会	出演ステージ
S.44 1969	団創立のための第一回会合		
S.46 1971	発起人会発足 <b>11.2 合唱団発足・第一回練習</b>		
S.47 1972	福永陽一郎常任指揮者に就任 代表・興石昭次	第1回(5/16):グノー「ミサ2番」、「雨」、「碑」、「ホ・ビ・ユ・ア・ハ・ム」、「日本民謡」	コンクール県大会金賞、コンクール関東大会金賞、コンクール全国大会(名古屋)優良賞
S.48 1973	日本男声合唱協会(JAMCA)発足(第一回演奏会、小田男は未加盟)	第2回(6/16):「蛙の歌」、「チャイフスキー歌曲集」、「月光とピエロ」	コンクール関東大会銀賞、コンクール全国大会(岡山)銅賞、「第九」(小田原、藤沢)、「アトワガソティ」(藤沢)
S.49 1974		第3回(7/6):グノー「聖セザリヤのミサ」、「柳河風俗詩」、「シジャンティ」、「枯木と太陽の歌」	コンクール関東大会、第4回「知られざる名曲をたずねて」(東京)
S.50 1975	団長・青野正純 東芝 EMI「雨」レコーディング	第4回(6/28):「日本民謡」、「雨」、「水のいのち」、「ジュ・ベ」作曲集	JAMCA 演奏会(名古屋)、藤沢オペラ「セピリアの理髪師、ヴェルディ」レクイエム(藤沢)、コンクール県大会
S.51 1976		第5回(6/26):カビニ「レクイエム」、「子供の四季」、「オペラ合舞曲」	鎌倉ワガエコンクール演奏会(鎌倉)、コンクール関東大会、湯河原市民文化祭、「第九」(小田原、藤沢)
S.52 1977	団長・大塚正夫	第6回(7/2):「イタリア歌曲」、「メンデルズゾーン合唱曲」、「岬の臺」、「白萩詩集」、「黒人霊歌」	JAMCA 演奏会(広島)、南エコー演奏会、神奈川県合唱フェスティバル(横浜)、東海メール大作との合同演奏会(名古屋)
S.53 1978	団長・江川卓	第7回(7/8):ジュ・ベ「ミサ、ト長調」、「海の精図」、「ジブシ一の歌」、「ミュージカル名曲」	小田原市民劇場「日本の合唱曲を歌う」、山田一雄の世界「ブラームスのタベ」、JAMCA 演奏会(弘前)、メサイヤ演奏会(小田原)
S.54 1979	団シンボルマーク制定 団長・松本和夫	第8回(7/7):モーツァルト「フリーメイソングタータ」、「中勤助の詩から」、「トステイ名曲」、「日本民謡」	山田一雄の世界「マラー千人の交響曲」、東海メール大作との合同演奏会(小田原)、「第九」(厚木、藤沢)
S.55 1980		第9回(7/12):ジュ・ベ「ドイツイミサ」、「島よ」、「ミツカミヤ名曲」、「阿波」	パルソリーターターフェルとの交換演奏会(小田原)、藤沢オペラ「カルメン」、「第九」(横浜、小田原)、神奈川県合唱フェスティバル(横浜)
S.56 1981	団長・下村興毅	第10回(7/11):「小学唱歌」、マラー「さすらう若人の歌」、「雪明かりの路」、「ササンス曲集」	市民音楽のつどい(横須賀)、JAMCA 演奏会(小田原)、福永陽一郎ワガエコンサート(藤沢)、「第九」(小田原、藤沢、秦野)
S.57 1982	東芝 EMI 混声合唱曲「冬に向かって」レコーディング	第11回(7/10):「沙羅」、「月光とピエロ」、「シジャンティ」、「シホカスのワルツ集」	JAMCA 演奏会(東京)、平塚中央公民館開館記念演奏会、神奈川合唱フェスティバル(横浜)、「メサイヤ」(藤沢)
S.58 1983	団長・日下部陽	第12回(7/2):グノー「聖セザリヤのミサ」、「海鳥の詩」、レハールの「メリーウイドー」、「愛唱歌」	藤沢オペラ「ウイリアムテル」、東京リターターフェルとの合同演奏会(小田原)、「第九」(藤沢)、「ハルモニニーミサ」(藤沢)
S.59 1984		第13回(7/8):「北斗の海」、「枯木の太陽の歌」、「黒人霊歌」、「ドイツイ民謡(大磯小学校合同)	JAMCA 演奏会(名古屋)、小田原木曜会演奏会、小田原フィルム・モーター「第九」、「第九」(藤沢)

沿革		定期演奏会	出演ステージ
S.60 1985		第 14 回(7/13): 「シュペルベルト合唱曲」、「月下の一群」、「蛙の歌」、「ウエストマンシア」	東海メロウパーとの合同演奏会(名古屋)、藤沢オペラ「アイーダ」
S.61 1986		第 15 回(7/12): 「わがふるさどのうた」、「学生王子」、「愛唱歌」	東京リーダー・ターフェルとの合同演奏会(東京)、JAMCA 演奏会(広島)、福永陽一郎還暦コンサート(東京)
S.62 1987	渡邊決己、指揮者に就任	第 16 回(11/4)客演・黒岩英臣: タリス「エレミヤの哀歌」、「シュペルベルト曲集」、「大手拓次の三つの詩」	森と湖のコンサート(津久井)、「第九」(松田)
S.63 1988		第 17 回(7/9): 「合唱のためのコンボジション6番」、「うつむく青年」、「ポピュラーソング」、「オペラ合唱曲」	JAMCA 演奏会(東京)、ブラームス「ドイツクワイエム」、神奈川県合唱フェスティバル(横浜)
H.1 1989	団長・柏木秀茂	第 18 回(7/16)客演・畑中良輔: 「トステイター名曲集」、「シュペルベルト曲集」、「草野心平の詩から」	西湘音楽フェスティバル「第九」、クリスマス合同演奏会小田原木曜会、南エコーコーラス
H.2 1990	2/10 福永先生急逝	第 19 回(7/14): 「ドイツ民謡」、「ことばあそびうたII」、「黒人霊歌」、「枯木と太陽の歌」、「雨」	三木稔の世界「レクイエム」(東京)、小田原市制 50 周年「第九」、JAMCA 演奏会(小田原)、ドボルザーク「レクイエム」(横浜)、神奈川県合唱フェスティバル(横浜)
H.3 1991		第 20 回(7/13)客演・多田武彦、小田原フィル: 「柳河風俗詩」、「三崎のうた」、「モーツァルト「アレーマンタタタ」」、「ヴェルディオペラ合唱曲」	福永先生追悼演奏会(東京)、西湘音楽フェスティバル・モーツァルト「レクイエム」(小田原)
H.4 1992		第 21 回(7/11) 客演・外山浩爾: 「やさし魚」、「雨のやみかた」、「光の海」、「ジェットコースターのワルツ集」	南足柄中学校音楽会、西湘音楽フェスティバル・ベートーベン「莊嚴ミサ曲」、JAMCA 演奏会(名古屋)、西湘教職員互助会演奏会
H.5 1993		第 22 回(7/10): シューベルト「ミサ、ト長調」、「アンフアンスフィニ」、「ロシア民謡」、「水のいのち」	丹沢音楽祭「第九」(秦野)、西湘音楽フェスティバル「第九」、
H.6 1994		第 23 回(7/19) 客演・外山浩爾: 「夜の青空」、「アイヌのウポポ」、「カリブ・ロマカの五つのシャンソン」、「ニュームーン」	JAMCA 演奏会(弘前)、全日本合唱連盟関東支部講習会、
H.7 1995		第 24 回(11/11) 客演・外山浩爾: 「ジプシーの歌」、デュオウパ「莊嚴ミサ」、「フォスターメドレー」、「日本民謡」	西湘音楽フェスティバル・プッチーニ「グロリア・ミサ」、神奈川男声合唱協会演奏会(小田原)、ケパル・パ・ニ祭(箱根)、小田原室内合奏団演奏会
H.8 1996	外山浩爾、音楽監督に就任 桑原正人、指揮者に就任	第 25 回(11/2) 客演・石井敏: 「柳河風俗詩」、「ALL THAT JAZZ」、「白秋の詩」、「枯木と太陽の歌」	西湘音楽フェスティバル・モーツァルト「戴冠式ミサ」、神奈川県合唱フェスティバル(横浜)、陽ちゃんといっしょコンサート(東京)、JAMCA 演奏会(東京)

お役に立つ だんしん



川田原第一信用組合

本店 ☎ 23-0291(代)  
 鴨宮支店 ☎ 47-9275(代)  
 南足柄支店 ☎ 74-1317(代)  
 中町支店 ☎ 23-5010(代)

のれんと味  
 網元 だるま  
 直営 DARUMA

本店 小田原市本町2丁目 TEL0465(22)4128(代)  
 城址公園より徒歩5分・駐車場完備  
 市民会館食堂 TEL0465(23)3827

# 1995~1997 小田男カレンダー (予定も含む)

年.月.日.	曜	演奏会名等	会場	指揮
95.11.11	土	第24回定期演奏会	小田原市民会館	外山浩爾、渡邊決己
95.11.23	日	ケンペル・バーニー祭	箱根町御殿山公園	松本和夫
95.12.22	金	小田原室内合奏団演奏会	小田原市民会館	白井英治
96.2.25	日	神奈川県合唱フェスティバル	神奈川県立音楽堂	松崎陽治
96.3.16	土	西湘音楽フェスティバル「モーツァルト戴冠式ミサ」	小田原市民会館	黒岩英臣
96.4.21	日	「陽ちゃんといっしょ」	東京・紀尾井ホール	渡邊決己
96.5.26	日	第45回湘南合唱祭	茅ヶ崎市民会館	桑原正人
96.9.22	日	第12回 JAMCA (日本男声合唱協会)	東京・池袋芸術劇場	外山浩爾、荻久保和明
96.10.13	日	第30回小田原市民合唱祭	小田原市民会館	桑原正人
96.10.31	木	平塚市立江陽中学校演奏会	平塚・江陽中学	松本和夫
96.11.2	土	25周年記念定期演奏会	小田原市民会館	石井欽、外山浩爾、桑原正人
96.12.8	日	小田原と白秋	小田原市民会館	松本和夫
97.4.19	土	第2回神奈川県男声合唱協会演奏会	神奈川県立音楽堂	桑原正人
97.6.1	日	第46回湘南合唱祭	厚木文化会館	桑原正人
97.10.12	日	第31回小田原市民合唱祭	小田原市民会館	桑原正人
97.10.25	土	第26回定期演奏会	小田原市民会館	外山浩爾、桑原正人

## 1995~1996 演奏曲目

No	作曲者 (編曲者)	曲目	No	作曲者 (編曲者)	曲目
1	ブラームス (福永陽一郎)	ジプシーの歌 Op. 103	13	高田三郎	水のいのち
2	デュオウバ	莊嚴ミサ	14	(遠藤雅夫)	ALL THAT JAZZ
3	フォスター (福永陽一郎)	草薙馬、他	15	荻久保和明	幻の雪
4	宮城民謡 (小山清茂)	遠島甚句	16	多田武彦	柳河風俗詩
5	石井欽	刈干切唄	17	石井欽	枯木と太陽の歌
6	宮城民謡 (竹花秀昭)	高太郎節	18	近衛秀麿 (林雄一郎)	ちんちんちどり
7	宮崎一章 (福永陽一郎)	鳥原の子守歌	19	山田耕祥 (福永陽一郎)	あわて床屋
8	熊本地方民謡 (福永陽一郎)	おもやん	20	山田耕祥 (福永陽一郎)	この道
9	ヨハンシュトラウス	美しく青きドナウ	21	山田耕祥 (福永陽一郎)	帰る帰る
10	ヨハンシュトラウス	酒女歌	22	山田耕祥 (林雄一郎)	からたちの花
11	清水脩	月光とピエロ	23	中山晋平 (福永陽一郎)	砂山
12	モーツァルト	戴冠式のミサ			

## 美しい合唱は人生のロマン 小田男の"MEN"BERS

### トップテノール

石山誠	藤沢	加藤重喜	秦野	高藤恵司	厚木	セカンドテノール	小野原
中島弘光	南足柄	西山廣木代	二宮	長谷川幸雄	小田原	青野幸夫	小野豊
福嶋修	小田原	日置達男	南足柄	近藤国男	(団友)	佐藤精孝	鈴木幸三
佐野恵一	(団友)	加藤治信	(団友)			濱本一秋	鈴木慎治
菅井宗一	(団友)					宝子山尚生	諸橋学

### バリトン

青野正純	小田原	足利裕之	湯河原	伊東清邦	秦野	一色義信	秦野
氏家慶明	山北	小沢一	小田原	柏木秀茂	小田原	坂口宗夫	小田原
下村興毅	小田原	松本和夫	(団友)	山崎幸興	山北	田島達也	小田原
大塚孝文	(団友)	岩崎敦吉	(団友)	牛丸敏一	(団友)	星野正博	開成
声沢博	(団友)					武田元治郎	秦野

### 小田原男声合唱団

音楽監督	外山浩爾
指揮	桑原正人
ピアノ	大背戸亜紀子
ピアノ	加藤伸子
団内指揮者	松本和夫

### 運営スタッフ

団長	柏木秀茂
副団長	松本和夫
副団長	一色義信
副団長	福嶋修
渉外部長	長谷川幸雄
事業部長	日置達男
情報部長	足利裕之
事務局長	井上忠彦
会計監査	西山廣木代、田島達也

### 第25回定期演奏会スタッフ

実行委員長	日置達男
事務局	井上忠彦
会計	和嶋修二
舞台	高藤恵司
会場	青野幸夫
招待状	加藤重喜
プログラム	足利裕之、日置達男
打ち上げ	濱本一秋、諸橋学

# アポロピアノ

## 東洋ピアノ製造株式会社

スライクウェイ&サンズ 新品、中古  
ベークランドルファア 新品、中古



## 井上楽器

小田原お通運り

TEL 24-0515